

ザ・脈絡膜。

●企画にあたって

科学の歴史は、技術革新の歴史です。新しい技術が登場すると、従来の技術が陳腐化するだけでなく、その分野の概念が変わり急速に進歩します。その繰り返しが現在の科学です。

私が研究に従事した過去 30 数年間においても、多くの革命的变化を目撃しました。そのうち最も大きなものはポリメラーゼ連鎖反応（PCR）の発明であり、それまでコールドルームでの蛋白の生成が主であった生命科学実験が、あっという間に普通の研究室で実験される分子生物学に取って代われ、強烈かつ広範なインパクトを科学界に及ぼしました。現在その影響は、科学界のみならず政治や哲学にまで及んでいます。

これほどのインパクトはないものの、眼科領域でも革命的变化をもたらしたのがあります。それが光干渉断層計（OCT）です。特に網膜領域では、OCT により疾患概念や薬物治療の進歩などの大きな変化が起きました。従来、眼底写真や蛍光眼底造影といった 2 次元でしか理解ができなかったものが 3 次元で理解できるようになっただけでなく、組織の詳細な変化が定量的に観察できるようになりました。その結果、推測にすぎなかった病態仮説の真偽が明確になり、その理解が大幅に進みました。

さらに、その領域は enhanced depth imaging OCT という新手法が開発されたことによりいっそう拡がりました。その恩恵を最も受けたのが脈絡膜ではないでしょうか。従来、網膜の機能や役割はある程度理解されていましたが、脈絡膜が何をしているかはほとんどわかりませんでした。ところが、enhanced depth imaging OCT 法により脈絡膜の生体観察が可能になると、脈絡膜の機能や病態が明らかになっただけでなく、今までは部分的に理解されていた脈絡膜の情報が体系的に理解されることになりました。その結果、網膜疾患のかなりの部分が、脈絡膜が原因で引き起こされていることがわかるようになりました。最近では脈絡膜を治療の場として考える新しい治療法すら考案されています。

現時点では、病態形成における脈絡膜の役割についての理解は、拡大あるいは急速に変化している途上です。しかし、現時点での情報を理解することは、臨床眼科医にとってきわめて重要です。そこで、それらを包括的に理解していただくために、「ザ・脈絡膜。」というタイトルで特集を組み、各項目を斯界の第一人者にご執筆いただきました。その中身については、ここで説明するよりもご一読いただいたほうがおわかりになると思います。本特集号により皆様の脈絡膜への理解が深まり、日常診療に役立つことを祈念いたします。

坂本 泰二

鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 先進治療科学専攻感覚器病学講座 眼科学分野